



攝陽群談
四

ル 4
1387
4



門ル呂
箱 1387
4



攝陽群談卷第四

後志編集

○池ノ部 歌、各所俗、各所附、洲瀨

住江池 住吉郡住吉社前ニアリ

夫木 雜五 わつぎの木の根の細のまを秋さうさの住の池 慈鎮

同 くれの秋住のいゝ池まきく波岡の月心池 同入

長居池 同郡同所ニ属ス

堀後 百首 長居の池の水流のまきく子代の新三(字) 常陸

依網池 同郡庭井村ニアリ土俗此舊池シ

崇敬シテ御依網池ト云リ世俗三字音

二唱テ御依網ト稱ス後世猶誤テ味右衛

門池ト云リ因テ亦俗語ヲ加ヘ味右衛門

三陽群談卷第四

ト云シ青池ニ身ヲ沉テ後池水ニ望有
必水底ニ引沈時ノ人恐怖シテ水神ニ祭
ヲ以テ止ヌト云リ依網或ハ依羅ニ作ル
日本書紀卷第五云崇神天皇六十二年秋
七月乙卯朔丙辰詔曰農天下之大本也民
所特以生也今河内狭山塩田水少是以其
國百姓怠農事其多閑池溝以寬民業冬十
月造依網池云々同卷第九二推古天皇
十五年紀云且河内國作戸前池依網池亦
每國置屯倉云々是故ヲ以テ依網吾彦シ
今住吉郡吾孫子トスル事邨ノ部始ニ論

之猶亦神社門依羅社記者合スベシ今庭
井村トスル事後世ノ轉寔歟證歌未考
放池 東生郡放出村ニ属ス

大寺池 同郡四天王寺院内ノ蓮池ナリ

荒陵池 同郡同所金堂ノ中ニアリ

太子傳曆云敬田院斯地内有池号荒陵池
其底深青龍恒居處也以丁未歲始建玉造
岸上段点此地鎮祭青龍癸丑歲壞移荒陵
東下云々證歌未考敬田院ハ四天王寺ノ

夫木 夏三 讀人 不知

伯又介道眠藏ニ置テ軍勢ヲ助ク或曰温
麦ノ打手ト云ヲ聞誤テ伯父ノ心替ト思
取テ忍テ入道ヲ害シ寺ヲ去此池ニ血刀
ヲ浸ク後亦其訛ヲ知テ池水ヲ手向靈魂
ヲ弔フ因テ景清洞池ト稱スルノ所傳也
其證不詳歌名所洞池ニ俗語ヲ加ル歟
夫木集撰津國ニ比ス

夫木
雜五

同

昆陽池 川邊郡昆陽村ニアリ古俗昆陽ノ
御池或ハ大池ト稱ス此深底一目ノ金魚

西行

成尋
法師

アル事有馬郡温泉寺記ニ詳也

詞花
二夏

後拾
六冬

金兼
四冬

千冬

續拾
八雜

荒府

誤

所撰津國ニ比ス

新拾 川よわぬの池のほとけをいふなりやん人いふ
名寄 白鷺のゆめをいふ

待賢門
院堀川

僧都
長筆

仲実

経房

仙覺

好志

家隆

御前池 武庫郡廣田村ニアリ此所御前ト

稱スルノ所傳演ノ部ニ然リ

名寄 ぼつも人のきけひ洞そねまの池くあぬあもれ 讀人不知

真野池 夫田邊郡東尻池村ニアリ

万土 浦の池は小菅とまなぬの池をさるりきりのう 人言

冬一 夫木 し釣れんるの行はぬれ水をもるまの池水 実清

同 かの池は信じてり一人もまの河まの池もあらん 後九条 仲実

同五 陸まの池はさへせも名のみぬもあらん 仲実

同冬 冬まの池水はさるりきりの池もあらん 三条文 道大

生田池 同郡生田村ニアリ

拾十 津のまの池はさるりきりの池もあらん 讀人不知

夫木 夏二 池也生田の池のわやめまの池種かまひふん 為家

日雙 同まの池は月影の秋もあらん 俊成

同 為の池はまの池の秋もあらん 俊成

同 月まの池はまの池の秋もあらん 康元

三原池 方角赤考夫木集撰津國云 康元

夫木 いまの池はまの池の秋もあらん 康元

同 し釣れんるの池はまの池の秋もあらん 俊頼

○同俗名所 附 瀨 瀨 寺 堂 池 寺 記 此 又

上池 東生郡四天王寺院内蓮池ノ東ニ有

此池伽藍火災用水ノタメニ令掘之池也

東シヌテ上池トス池中ニ石碑アリ世ニ

シ波芝シテ岸ニ伏テ池水シ清ス所傳
池記云昔本田善光ト云者厚ク佛乘ニ志
常ニ西方淨土シ念シ佛名シ誦スルコト
毎月數千遍也或時難波ニ來テ沼中ニ遊
於テ是無人シテ善光シ呼リ其音聲如毛
微妙ニシテ恠コト暫アリ沼中光明赫奕
トシテ金色ノ彌陀佛像顯然夕リ善光圍
遠湯仰感歎恭敬セリ于時佛告曰往昔守
屋連等徒寺塔佛像シ燒拂テ所殘佛像難
波掘江ニ拵是今世所也汝シ待事久シ急
可奉守實ナル哉信濃國川中嶋郷ハ佛場

ノ至ル所也ト佛告ニ應シ尊像シ負奉リ
終ニ信州ニ來リ寺院シ創シテ善光寺
ト成リ是縁シ以テ阿彌陀池ト稱ス元祿
七戌年本尊信州ヨリ出テ四天王寺ニ
於テ諸人結縁ノ夕メ御帳シ開拜シシム
自是以來善光寺講ト号テ此池ノ邊ニテ
念佛執行ノ室シ構ヘ常夜燈シ置リ是則
善光寺本堂佛前ノ夜燈シ移ス所也元祿
巳卯年蒙リ公命州室終ニ蓮池山知善院
和光寺ト成リ善光寺本尊ハ善光守リ奉
ノ尊容ニ四十七軀ノ佛像ヲ加テ彌陀四

十八ノ誓願ニ表レテ以上四十八躰トス
其第七ノ佛像和光寺成テ安置シ善光寺
末院ニ属ス寺院ハ其部ニ比ス
日本書紀卷第十九欽明天皇十三年冬十
月百濟聖明王聖王遣西部姫氏連卒怒喇
斯致突等獻釋迦佛金銅像一軀幡蓋若干
經論若干卷別表讚流通禮拜功德云是法
於諸法中最為殊勝難解難入周公孔子尚
不能知也法能生無量無邊福德果報乃至
成辨無上菩提譬如人懷隨意寶逐所須用
盡依情此妙法寶亦復然祈願依情無所乏

且夫遠自天竺爰泊三韓依教奉特無不尊
敬由是百濟王臣明謹遣陪臣怒喇斯致奉
傳帝國流通幾內果佛所記我法東流是日
天皇聞已歡喜踊躍詔使有云朕從昔來未
曾得聞如是微妙之法然朕不自爰乃歷問
群臣曰西蕃獻佛相貌端嚴全未曾看可禮
以不蕪我大臣稻目宿禰奏曰西蕃諸國一
皆禮之豐秋日本豈獨背也物部大連尾輿
中臣連錦子同奏曰我國家之玉天下有恒
以天地社稷百八十神春夏秋冬祭神為事
方今改拜蕃神恐致國神之怒天皇曰宜附

情願人稱目宿稱誠令禮拜大臣跪受而悅
 悅安置小墾田家懃脩出世業為因淨捨向
 原家為寺於後國行疫氣民致及殘久而愈
 多不能治療物部大連尾裏中臣連錄子同
 奏曰昔日不須臣計致斯病死今不遠而復
 必當有慶宜早投奔懃求後福天皇曰依奏
 有司乃以佛像流奔難波掘江云々
 同十四年天皇及於階下疫疾流行國民可
 絕豈非專由蕪穢臣之興行佛法歟詔曰灼
 然宜斷佛法丙戌物部弓削守屋大連自詣
 於寺踞坐胡床斫倒其塔縱火燔之并燒佛

像與佛殿既而取取燒餘像令棄難波掘江
 云々 伽藍開基記云信濃州伊那郡守招
 村有士民名本多善光有子曰善佐家貧無
 資產性慈心而在志于佛乘時從太守至京
 師推古帝九年事滿廻本州偶遊難波掘江
 有水中央忽飛至善光之肩上驚恠視之如
 未金像也其長一尺五寸像告曰勿生恐怖
 我為汝所持已三世矣汝在天生名長者月
 蓋又為百濟國王号聖明今世生日城曰善
 光三世緣至於此疾還本州我與汝到東方
 利益衆生善光大喜而奉如來歸信州啟宇

營無_レ力便安_レ舍中_ニ供養_ニ香華_ヲ勤修_ニ精進_ニ自_レ此
後_ニ四十_一年_ニ皇極_帝三_十元_年像告_曰本_州
水_内郡_{茅井}鄉_可移_我善_光乃_就水_内郡_創
小_守安_金像_名曰_本善_堂靈_應日_新矣_天皇
有_冥府_感敕_建太_伽藍_移金_像榜_曰善_光寺
莊_飾極_人功_崇廣_嚴靡_上映_雲漢_寶鈴_應山
川_皇帝_大悅_慶讚_紫雲_下覆_天樂_遙鳴_帝詔
任_善光_父子_為甲_斐信_濃兩_州太_守自_此是
寺_日益_繁榮_也云_々一_説本_多善_光ト_云
ハ_難波_二居_シム_百濟_王善_光王_トス_ル七
ノ_歟ト_云比_其王_ハ日_本書_紀天_智帝_ノ記

二見_タリ又_聖德_太子_善光_寺ノ_如來_ニ書_簡
ヲ_通シ_給コ_ト推_古帝_ノ御_宇ニ_シテ_四
天_手寺_西重_門ノ_記ニ_書リ_然ハ_善光_王ト
ス_ルノ_一説_前後_{アリ}右_伽藍_開基_記ノ_傳
信_州善_光寺_記ノ_如シ_本多_或ハ_本田_トス
尼_洲同_郡海_老江_村ノ_池ニ_{アリ}所_傳云_昔
聖_德太_子佛_法傳_來シ_給ヒ_テ人_民愁_{アル}
ノ_邪ヲ_守屋_太連_カ徒_奏シ_勸テ_佛像_僧尼
等_ヲ斷_絶ス_是時_此池_ニ三_尼ヲ_沉ム_因テ
尼_洲ト_云池_邊ノ_田圃_ヲ絶_法田_ト字_スト
云_リ太子_傳曆_云嗅_出三_尼奪_法服_就

海石榴市之亭並加警辱云々
 日本書紀卷第廿云敏達天皇十三年高麗
 惠便大臣乃以為師令度司馬達等女嶋曰
 善信尼一年十歲又度善信尼弟子二人其一漢
 人夜菩之多トヨ女豐名曰禪藏尼其二錦織壺之
 女石名曰惠禪尼云々 所謂三尼ハ是也
 海石榴市ハ大和國ニアリ今世尼洲ノ三
 尼田圃ノ絶法似夕リト云凡其證不詳
 夫婦池 同郡天滿天神橋筋ノ北町迹ニア
 リ所傳云昔郡中ニ於テ榮秀ノ士民アリ
 子ナキ事ヲ愁テ佛神ニ祈ルトイヘドモ

更ニ感得ナレ猶是ヲ悲テ諸國ノ神社佛
 閣ヲ行脚シテ年月ヲ重子終ニ歸來サリ
 ケリ女獨リ嬾テ業レ煩フ氣色彼長女ノ
 遊子歸期ヲ誤ノ歎ニモ増ルヘシナレド
 人は是ヲ勞ト云凡猶思止テ終ニ家ヲ出ル
 池ニ沉ム月アリテ男歸來テ斯ト聞レヨ
 リナキ妻ノ跡ヲ追テ同レ藻ト成又因テ
 時ノ人夫婦池ト号ク後世池中ニ道ヲ造
 テ池ヲ東西ニ分ツ其二ノ池ヲ以テ号ク
 ルノ三深キ謂ナレ凡云リ
 光明池 同郡佛性院村ニアリ所傳ニ云ク

天正年中池中二光明在テ如モ不時ニ龍
 燈ノ光ヲ見ス村民怪之洲底ヲ探ル佛像
 一軀ヲ得タリ夫ヨリ以テ來光明ノ号アリ
 猶大願寺記ニ詳也一名大願寺池凡云リ
 磨池 同郡業嶋村ニアリ所傳不詳此池ノ
 邊ニ於テ磨ヲ顯ス者必怪アリト云リ
 幣池 嶋下郡耳原村ニアリ所傳不詳歌各
 所幣ノ森ノ中ヲ以テ池ノ名トスル歟
 磐手池 嶋上郡安満村ニアリ所傳歌各所
 トスルト云凡證不詳因テ俗各所ニ比ス
 金龍池 同郡古曾部村金龍寺院内ニアリ

池記寺院ニ詳也因テ是ニ畧ス

袈裟洗池

同郡眞上村ニアリ所傳ニ云黃

牛山靈松禪寺ハ行基菩薩開基ノ靈區也

自ラ地藏尊ヲ彫刻シテ始テ地藏院ト号

ス中興妙應禪師松樹ノ梢ニ靈光ヲ見テ

大悲ノ像ヲ得テ靈松寺ト改ム行基開闢

ノ時此池自然ト涌出シテ如毛灑水ナリ

自ラ袈裟ヲ洗給フ中興祖題之寺記其部

ニ詳ナリ

朱雀池 豐嶋郡伏尾村久安寺境内ニアリ

此池弘法大師加持ノ水當山牛王寶印ヲ

袈裟洗池



押テ辨財天富ノ札ヲ書スルノ硯水ニ用
工因テ一名富ノ池氏云リ亦院前ヲ以テ

唐

朱雀池ト云

唐船洲同郡池田村ニアリ所傳ニ云往昔
應神天皇三年吳國ヨリ吳織穴織ニ女神
来朝シ始テ此水門ニ着又其頃西海ニ續
テ湖水ノ如シ今漸ク池田川ヨリ神高川
ニ出テ諸船ノ通ナク餘ハ田圃蒼室ト成
ト云氏此神来岸ノ所ノ三洲ト成テ亦世
ニ残り留ルコト神徳ニ因リ神社其部ニ
アリ亦醫主山壽命寺本尊藥師佛此洲志

ヨリ現人記寺院門ニ詳ナリ
 沙彌淵 同郡伏尾村久安寺門前ニアリ上
 言於于是竜魚ノ栖アリ政所沙彌禁殺生
 因テ時ノ人洲ノ号ニ取リ
 明星池 川邊郡津門村ニアリ所傳ニ云藤
 原仲光愛子幸壽丸ハ丰君券女御前ノ命
 ニ替テ我子ノ首ヲ斬多田ヨリ是ニ来テ
 池水ニ濯天津門邸ニ埋藏ス忠義ヲ重ニ
 スル事天是ヲ感ジ池水ニ星光降ヲ以テ
 明星池ト云或ハ首洗池ト云云リ幸壽君
 命ニ替コト寺院ノ部多田院ニ詳也塚亦

其部ニ然リ
 澤池 同郡榮根村ノ西ニアリ所傳不詳
 菰池 同郡安倉村池之嶋ニアリ所傳云往
 昔此池ニ菰ヲ遊テ毎歳五月五日天王
 寺ニ運送シテ端午ノ糍ヲ作テ太子尊前
 ニ備之其例年曆不知其始終ニ傳止レテ
 以來一白歳ニ過タリト云リ
 鵜池 同郡安倉村ニアリ所傳不詳或人云
 昔此池ニ鵜多集ルコト數日アリ因テ音
 ヲ以テ号ル歟ト云リ
 笠池 同郡昆陽庄内ニアリ所傳不詳村民

昆陽ノ舊跡ニ題シテ讀歌賦詩

鳩洲 同郡伊カ志村滝ノ部ニ出ル小松原

滝ノ下ニアリ所傳不詳

唐櫃洲 同郡東多由村ノ西ニアリ所傳云

昔盜賊山寺ニ入テ法服金銀等ヲ奪ヒ櫃

ニ入テ負出ル村民怪之跡ヲ追盜賊知之

其櫃ヲ此洲底ニ沈藏テ遂去日ヲ經テ亦

手爰来リ雖求之終ニ不得探是ヲ以テ洲

ノ号ニ殘ルト云リ

鏝洲 同郡西多由村ニアリ所傳云昔此洲

底ニ惡魚在テ人民道路ノ煩ト成勇壯者

鏝ヲ携水中ニ入是ヲ探得テ割捨ル浮

トスルニ鏝ナシ終ニ不知所有時ノ人号

テ鏝洲ト云ト云リ

鈿洲 同郡同所ニアリ所傳不詳樵夫鈿ヲ

落シ沉ト云ル耳

鐘洲 同郡同所ニアリ所傳云昔盜賊寺ニ

入テ鐘樓ニ登リ鐘ヲ奪フ衆僧追之其罪

ヲ道ント此洲底ニ投入山谷ニ隱去此鐘

終ニ不得揚水中ニ入者今毛龍頭ヲ見ル

事アリト云ル

移瀨 同郡同所多田院前ニアリ所傳云昔

此所八幡大菩薩影向人地神像水ニ移リ
 湖黄金ノ光アルヲ以テ移瀨ト号ト云リ
 院前ヨリ此所ニ至テ殺生ヲ禁斷セシメ
 餓飢瀨 同郡尾崎ノ浦邊ニアリ所傳ニ云
 源義經公西國下向ノ時大物浦ニ於テ纜
 シ解ト云レ風波順ナラス數日空ク送ル
 從類飢餓ス武藏坊村之借狀ヲ以テ民家
 ニ近付糧米ヲ求テ各養飢困テ号テ餓飢
 瀨ト云ト云リ 東鑑云元曆二年十一
 月六日乙酉行家義經於大物濱乘船之尅
 疾風俄起而逆浪覆船之間慮外止渡海之

儀伴類分散相從豫州之輩終四人所謂伊
 豆右衛門尉堀彌太郎武藏坊辨慶并妻女
 守静一人也云々猶舊屋ノ部濱ノ部等ニ
 重出コト詳也
 吉山池 有馬郡三輪村ニアリ所傳云三輪
 大神氏地ノ村民吉事災難ノ神託アル時
 此池ノ水巡リ勤コト車輪ノ如シ巡ノ左
 右シ見テ善惡ヲ知事甚妙也ト云リ
 車瀨 同郡三田村ノ市中ニアリ所傳云此
 所生瀨川ノ水上ニテ山ノ雷ヨリ落下テ
 尖コト矢ヲ飛カ如シ流水此瀨ニ當テ巡

餓飢ガ類



コト車輪ノ如シ因テ車瀬ト号ト云リ
 龍池同郡女子村ニアリ所傳云當山永澤
 寺開山通幻和尚ハ徳逸ノ僧也或夜室外
 ニ人アリ和尚何者ゾト問答曰演難キ女
 人也哀願ハ法ヲ示給ヘト云和尚不許入
 室内勤行讀誦ノ御法ヲ耳ニ觸テ三惡道
 ノ苦ヲ遭ベント也夫ヨリ夜々擡脚伽ノ
 水ヲ運ブ一七日ヲ經テ和尚問曰汝誠ノ
 女人ニ非ズ山内ノ池中ニアリヤ答テ曰
 然リ千時一旬ノ偈ヲ授ト否忽龍ト化シ
 テ鱗ヲ放チ殘シテ雲中ニ飛テ光明地ヲ

照セリ云云、リ因テ竜池ト号ス寺記其部
ニ詳ナリ
嫁洲同郡井澤村ニアリ所傳云昔此所ノ
士民晝ヲ迎リ夫婦睡キ事魚ノ水ニ登ル
如シ此是ヲ妬テ偽シ以テ此池ニ落シム
号テ嫁洲ト云ト云リ
酒瓶池同郡藍村酒瀆神社山内ニアリ所
傳云昔此池ノ後ナル大巖ノ半腹ヨリ酒
ノ漏出ルコト流水ノ如シ其滴此池ニ落
テ酒ノ香アリ癩病ヲ患ル者酒ヲ飲テ後
大岩ノ滴終ニ止ヌトイハレ此池ノ水今

モ酒ノ匂有テ味常ナラス因テ酒瓶池ト
云ト云リ神社其部ニアリ
赤洲能勢郡栗栖村ノ奥ニアリ所傳云、中
頃前川又七郎景數ト云、者在住シテ武勇
ノ譽アリ且墓後生ヲ好ム或月獵ニ出テ
遠ク遊ブ月既ニ西ニ没ス洲ノ側ニ築
于時水中ヨリ蛇這登テ景安ガ足ノ大指
ヲ呑驚覺テ雁腹ヲ排ム蛇ニ割テ水米
ニ成リ今モ猶清カラス因テ赤洲号アリ
蓮池矢田郡西代村ニアリ歌名所蓮池
ハ越中國ニアリ此所俗名所ニシテ池中

廣二町四方池ノ堤ハ西國街道也所傳云
 天平年中故僧正行基令掘池也是則人民
 農業旱魃ノ愁莫シム公夕々也因テ蓮ノ
 一種ヲ池中ニ掘入ハ功徳水ト稱シ蓮池
 ト号給ト云リ亦源平ノ戰場ト成時小松
 内府家人蓮池權守家綱戰死シ久テ池ノ
 号ト成氏云リ其證不詳此池ノ東ニ於テ
 本三位重衡卿ノ生處コト古戰場ノ部ニ
 論之

七池 同郡同村ノ東ニアリ所傳云光源氏
 君駒ノ躰ヲ浸所ト云火亦源氏七騎ノ躰

士相並テ馬蹄ヲ冷ス七ノ池ト成テ如モ
 七曜ノ如シ同テ七池ト号ス

鏡池 同郡田井畑村ニアリ所傳云昔行平
 中納言湏磨ニ配流ノ時假初ニ戲テ憂行
 暮ノ徒然ヲ尋子通タル松風村雨ノ女住
 居タル所也行平卿都ニ登リ給テ後姿容
 ノ衰ナルモ慮シキ寧古ノ事ナレト思シ倦
 テ斯ト云アヒテ互ニ此水ニ憂面影ヲ移
 タル池ナレバトテ鏡池ト云ト云リ猶同
 屋ノ部ニ詳ナリ

明星池 西成郡天滿末寺町大鏡寺門前ニ

鏡池



アリ池菅神ノ靈廟ニ近シ昔鎮座ノ始
一夜ニ松生シテ其椋星光降り池水ニ移
耀カク夕ヲ以テ明星池ノ名在ト云ノ所傳也
神社其部ニアリ

凡寺社境内ノ蓮池或ハ村里田野山谷
ノ溜池等多ト云凡田圃農業ノ用水夕
ルヲ以テ畧之ヲ

○沼ノ部歌名所
淺澤沼 住吉郡住吉村ニ屬ス

千載 又月多子ツキタコ浅澤をめぐりかつら浦まわりの
夫木 杜若あはは小中の沼水うけ成りて咲けり
雜五 師類

王手岸 東生郡四天王寺村ニ属ス白石王
手水ノ流ル岸トスル歟

大江岸 西成郡ニ属ス一名渡部岸ト云リ
今ノ俗大坂市中ノ軒屋ヲ指リ菅家御

集土佐日記等川尻ノ江口トアリ今ノ江
口村ハ遥索ニ隔ルハ軒屋昔ハ赤海邊ニ

レテ洲中ナルヘシ其證天王寺ノ西門ヨ
リ船ニ乘テ西ノ國ヘ下ルト云ル新古今

集ノ詞書アレハ也然ラハ惣テ難波津ノ
浪打際廣々タルヲ以テ大江岸ト云テ定

ル所其證不詳亦梶原平三景時逆櫓ノ論

アリ今按スルニ黒宰瀉夫木集紀州櫻津

ニ比ス上略シテ宰ノ岸トナル後亦論ノ

岸ト成リヤ黒宰瀉ノ證歌其部ニアリ

後拾遺記ノヤ大に此岸ノ事ヲ云フ伊弉山

堀百 さらさら此ノ見取ぬれしころ乃大に岸ハ

夫木 船のふちをたづねて成りたる大に岸此

宗鑑云元暦二年三月八日辛卯源廷尉

飛脚自西國恭著申云去月十七日僅率百

五十騎凌暴風自渡部解纜翌日卯尅著于

長後 隆源 法師 經義

阿波國云々今渡部ノ名ハ大坂ノ市中ニ
在テ南渡部町北渡部町ト号ス
濱松岸 同郡ニ属ス或ハ住吉岸ノ下名ト
ス藻鹽撰津國ニ比ス

三嶋江岸 嶋上郡三嶋江村ニ属ス
大寄寄 宇まやいこまんとおんはちのうら 此後松のきく 俊成

濱松堤 岸ニ同シ證歌未考歌枕名寄撰津
國ニ比ス因テ題之

俗名所堤トスルモノ道法數町ヲ經テ行

程果シナク嫁戀堤ト云布ヲ撫曝シテ
晒堤ト稱シ田圃ノ字ヲ取テ梅田堤ト号
ス是皆田家村里ノ水除要害ニ築之耳ニ
シテ深キ所縁ナノ名所トシテ題スルニ
不足因テ不載之

○海ノ部歌各所
撰津國海 一州ニ属ス西南ニアリ

難波海 西成郡ニ属ス摠テ此類ノ各所大
江岸ノ論ニ准ス 延喜式卷第三云東
宮八十嶋祭御巫生嶋巫並夷一人御琴彈

一人神部二人及丹侍一人丹藏屬一人舍
人二人赴難波湖祭之云々
三代實錄卷第三十九云元慶五年來二月
十二日首途自大和國經山城河陽宮到攝
津國難波海解除云々

カ五 たゞこれ世なりて押熊や難波の海なる事也

夫木 難波乃海也其形如詠れをきもこれ海也

同 世代移る所海此入月と難波の所なり

高津海 同郡西高津村二向

カ六 名もこれ高津海沖流るる所なり

名吳海 住吉郡住吉村二向り越中國二七

日三入
不知

名吳ノ号アリ今世名吳ハ雄略天皇御宇
漢織吳織吳國ヨリ渡海ニ始テ住吉津ニ
泊シ給フヲ以テ名吳海トスル歟吳織住
吉津ニ至ノ證出于日本書紀津ノ部ニ比
可葉 名吳此海と云物なり此海也
同 此吳此海の住吉白波と云物なり
十五 此海也其形如詠れをきもこれ海也
夫木 此海也其形如詠れをきもこれ海也
右萬葉集哀其水手ノ歌日本書紀應神天
皇十三年ニ淡路島ニ御幸西ノ方ヲ見
ナハスニ數十ノ大麻海ニ浮テ来リ則塔

家持

宗尊
親三

公朝

磨國麻兒水門ニ入又天皇ノ夕一ハク使
 如何ナル麻ヅ大海ニウカヒテ忽ニウ
 クル九右共見テアヤシム使ヲ遣シ方見
 セシム使至リテ見ルニ皆人也夕、節ツ
 ケル麻ノ皮ヲキモノトセリ云く水至ッ
 麻子ト云事此時ヨリ起リ然ラハ各吳ノ
 浦ニ麻子ヲ讀ル歌越中ニ属シ難シ麻子
 余ノ俗加子ニ作ル
 朴津海 同郡同所ニ属ス
天 網子海 同郡同所ニ属ス一説長門國俗名
能因

所トス萬葉集撰津國歌北一首ノ中ニ比
 五七 どの風がまきまきしはの海はあけの境に玉原のそと
目天 同十三 個子れ海のわく破るうまはら波もまきまきしはの
不 同 けはしあま多つられはは海あけの境に玉原のそと
全 猪名海 豊嶋郡池田村猪名川邊ニ属ス此
全 所昔西海ニ續ノ事俗名所唐船洲ニ論之
天 同 濠洲のうねりあま多つられはは海あけの境に玉原のそと
雜五 同 志那多、あけの海に船あて小舟乗るの風とまららん
隆房 武庫海 武庫郡武庫庄内ニ属ス
 日本書紀卷第三十三、持統天皇三年丙申
 禁斷漁獵於撰津國武庫海一千歩内云々

元亨釋書云持統天皇三年秋八月置放生所三撰州武庫海一千步紀州香野加州身野各二萬頃順佛化也云々

五三 此の海を新よみしといふるは海のつらねをいふ也 人九
四五 古名の海はまゝいふはしりて海のつらねをいふ也 不知

夫木 蘆屋海 免原郡芦屋村ニ属ス證歌未考浦 長方

夫木 眞野海 矢田部郡栗尻池村ニアリ 衣笠

夫木 眞磨海 同郡西眞六村ニ属ス 衣笠

夫木 生田海 同郡生田村ニ属ス 惠慶法師

九意 和田海 同郡兵庫和田ニ属ス或ハ輪由ニ 并記

夫木 作ル 近江國ニ同名アリ 不知

冬三 茅渚海 方角不詳世俗西成郡ニ属シ予治 全

日整 同 狹尾 絶く形如く和田海の沖を玉原と云ふ 全

ト稱スルノ名所アリト云 比其證不分明 血浴ト稱ズルノ名ハ伊波禮毗古命ノ時 軍アリテ洗其御手之血故謂血浴海也ト

古事紀ニ見タリ撰津國ニ属スル時ハ住
 吉郡ニアル歟仙覺抄撰津國云々元亨釋
 書卷第七云欽明天皇十四年夏五月泉郡
 茅渟海有奇聲光云々今泉州助松村ノ海
 茅渟浦ト云リ大和物語ニモ和泉國人
 姓ハ茅渟トナン云ケルト書リ然ラハ猶
 和泉國也ト云凡世俗撰津國ニアリト云
 仙覺抄等ニモ然リ今按ズルニ大和物語
 二所載茅渟塚當國免原郡ニ在テ求塚ト
 号テ如毛海ニ迹レ因テ其海原ニ茅渟ノ
 名ヲ取テ此國ノ各所トスル歟

万土 ちの海は遠道の小松松少等つゝ其の子ゆり 人吉
 夫木 茅渟ノ海の遠道は小松松少等つゝ其の子ゆり 知家
 難五 ○浦ノ部 歌名所俗各所

難波浦 西成郡ニ属スト云凡所指定難レ
 一説川邊郡難波村ヲ指リ難波ノ号アル
 事撰津國續歴ニシテ始ニ論之

古今 此れと云難波の事ありしは... 不知
 後撰 ありし時と云難波の事ありしは... 全
 十三 ありし時と云難波の事ありしは... 全
 拾九 ありし時と云難波の事ありしは... 全
 同 わりし時と云難波の事ありしは... 全
 後拾 ありし時と云難波の事ありしは... 伊勢

難波江浦 方角右二同

夫木 難七 西行 舟を舟くや舟舟は言ひくも波の月けし難波の舟

同 舟の舟を舟くや舟舟は言ひくも波の月けし難波の舟

住吉浦 住吉郡住吉村二属ス

後拾 住吉村 住吉郡住吉村二属ス 元補

上賀 住吉村 住吉郡住吉村二属ス 惠慶

同十 住吉村 住吉郡住吉村二属ス 一条右大臣恒

津守浦 同郡二属ス

新勅 津守浦 同郡二属ス 隆李

神 津守浦 同郡二属ス 忠度

十三 津守浦 同郡二属ス 大伴皇子

五二 津守浦 同郡二属ス

長井浦 同郡二属ス或ハ長居二作ル

新千 長井浦 同郡二属ス或ハ長居二作ル 藤園

堀後 長井浦 同郡二属ス或ハ長居二作ル 兼昌

千五 長井浦 同郡二属ス或ハ長居二作ル 丹後

百番 長井浦 同郡二属ス

各吳浦 同郡二属ス 家持

万葉 長井浦 同郡二属ス或ハ長居二作ル 不知

六帖 長井浦 同郡二属ス或ハ長居二作ル 俊頼

夫木 長井浦 同郡二属ス或ハ長居二作ル

浅香浦 同郡二属ス浅香ノ号アル事村ノ部ニ論之

万葉 浅香浦 同郡二属ス浅香ノ号アル事村ノ部ニ論之

新後 行能
新十 玉原の浦の浦に御下り松やまの浦

敷津浦 同郡三属ス津守長井各吳淺香ヨ
為明

至 行若れ安津の浦に御下り松やまの浦
不知

家集 松風や安津の浦に御下り松やまの浦
俊頼

勝間浦 西成郡勝間村ノ浦ヲ云リ今ノ俗
家隆

御津浦 同郡三属ス難波ニ同シ
不知

勝間ト補ジ或ハ木妻亦古妻ニ作ル
不知

後七 難波の浦に御下り松やまの浦
業事

夫木 夫木集撰津國ノ名所ニ
衣笠

同 比スハ雲御抄撰津國難波浦ヲ云ト云ク
定家

蘆浦 同郡ニ属ス名所トスルニ不_レ足唯
芦

比スハ雲御抄撰津國難波浦ヲ云ト云ク
不知

大江浦 同郡ニ属ス岸ニ同シ
延喜

夫木 玉原の浦に御下り松やまの浦
不知

長柄浦 同郡北長柄村ニ属ス夫木集撰津
不知

近江兩國ニ比ス

新後

七十

夫木

同

大和

田

五

夫木

三

振

バ

比良山代の松林の浦まきまき此の風をぬく 為氏

玉藻のいそりしりし成りしりの浦の後の玉砂ハ 元浦

わだつらみのうねにたけて美をせりやちかた 能因

同郡大和田村ニ属ス亦兵庫和 兵庫

田岬ニ属スルノ説アリ

淡きうらみしき津代よりあはれと浦をちかたのり 不知

大物田のうらみしき津代よりあはれと浦をちかたのり 具氏

三嶋江浦 嶋上郡三嶋江村ニ属ス夫木集 夫木

振津ニ比ス亦伊豫肥後兩國ニ三嶋浦ト 三嶋

バカリ讀ル歌アリ

夫木

同土

猪

万

昆

續

武

五

風

共

堀

風吹も花咲あはれむらさき小橋むらさき浦の浦にたれむらさき 西行

むらさきむらさきむらさきむらさきむらさきむらさきむらさき 小井

猪名浦 豊嶋郡池田村ニ属ス海ニ同シ 不知

万石 志保のむらさきむらさきむらさきむらさきむらさきむらさき 不知

昆陽浦 川邊郡昆陽村ニ属ス上ノ古西海ニ 不知

續コト猪名海ニ同シ 能光

武庫浦 武庫郡武庫村ニ向リ 赤人

五三 じつじつ小松島小松島小松島小松島小松島小松島 赤人

風 じつじつ小松島小松島小松島小松島小松島小松島 行平

共 風子の真はむらさきむらさきむらさきむらさきむらさきむらさき 行平

堀 風子の真はむらさきむらさきむらさきむらさきむらさきむらさき 行平

夫木

ほろろのわらわら... 後徳

後徳

同

堂花河を... 後馬

後馬

見宿女浦 同郡岩屋村 賑濱村 二向 夫木

集撰津國ニ比ス 三女或ハ敏馬ニ作ル

五六

去十後... 福居

福居

續千

よそよそに敏馬... 師光

師光

玉九

夏人と之大... 忠女

忠女

灘浦 同郡青木御影芦屋村等ノ濱 凡テ灘

ト云リ 餘國ノ灘 當國ノ灘 皆其所ヲ冠名

シテ何々ノ灘ト云リ 此所ノ土人ハ惣テ

灘目都ト呼テ 當浦ノ俗ト知り 夫木集各

所ニ比レテ 夫木考國云々

夫木

漸ろ... 三三人

三三人

生田浦 矢田部郡生田村ニ向リ

後世

衆... 全

全

産 此の産... 全

夫木

即... 加茂

加茂

源磨浦 同郡源大村ニ向リ

續古

該... 行平

行平

十 該... 家隆

里 該... 通後

其野浦 同郡東尻池村ニ向リ 夫木集 近江

東野

東尻

近江

國上云々入江下結比諺儿歌振津國比ス

續古 安志浦の海風意を此入江の海風と云ふ

續古 安志浦の海風意を此入江の海風と云ふ

續古 安志浦の海風意を此入江の海風と云ふ

續古 安志浦の海風意を此入江の海風と云ふ

續古 安志浦の海風意を此入江の海風と云ふ

續古 安志浦の海風意を此入江の海風と云ふ

續古 安志浦の海風意を此入江の海風と云ふ

續古 安志浦の海風意を此入江の海風と云ふ

續古 安志浦の海風意を此入江の海風と云ふ

續古 安志浦の海風意を此入江の海風と云ふ

名立浦 方角未考夫木集振津紀伊兩國或

夫木 獨りなる名を此入江の海風と云ふ

冬ニ 獨りなる名を此入江の海風と云ふ

夫木 獨りなる名を此入江の海風と云ふ

冬ニ 獨りなる名を此入江の海風と云ふ

夫木 獨りなる名を此入江の海風と云ふ

冬ニ 獨りなる名を此入江の海風と云ふ

夫木 獨りなる名を此入江の海風と云ふ

冬ニ 獨りなる名を此入江の海風と云ふ

夫木 獨りなる名を此入江の海風と云ふ

冬ニ 獨りなる名を此入江の海風と云ふ

夫木 獨りなる名を此入江の海風と云ふ

冬ニ 獨りなる名を此入江の海風と云ふ

夫木 獨りなる名を此入江の海風と云ふ

冬ニ 獨りなる名を此入江の海風と云ふ

夫木 獨りなる名を此入江の海風と云ふ

冬ニ 獨りなる名を此入江の海風と云ふ

夫木 獨りなる名を此入江の海風と云ふ

冬ニ 獨りなる名を此入江の海風と云ふ

夫木 獨りなる名を此入江の海風と云ふ

冬ニ 獨りなる名を此入江の海風と云ふ

夫木 獨りなる名を此入江の海風と云ふ

冬ニ 獨りなる名を此入江の海風と云ふ

夫木 獨りなる名を此入江の海風と云ふ

冬ニ 獨りなる名を此入江の海風と云ふ

石花女浦 方角未考 夫木集未考 國ニ比ス

各寄石花女關 攝津國ニ比ス

夫木 石花女浦 夫木集未考 夫木集攝津國ニアリ

能津浦 方角未考 夫木集攝津國ニアリ

同 藤原朝臣 攝津國ニアリ

三穗浦 方角未考 藻鹽 攝津國ニアリ

國ニ同名アリ

夫木 攝津國ニアリ

同 攝津國ニアリ

ケル 三ノ浦 方角未考 文字不分明 能因法

師歌枕 攝津國ニアリ

三カ三ノ浦 右ニ同シ 方角證歌文字未考

○同俗名所

大悲浦 西成郡今宮村ノ西ヲ云リ亦在攝

山清水寺大悲ノ淨刹ニ向フヲ以テ大悲

海ト云ノ俗語アリ 神社考云 實忠良

辨徒也嘗神遊都卒內宮見四十九重摩尼

殿有一所榜曰常念觀音院見其修法儀心

甚信慕便乞聖象而得軌覺後欲修法而無

尊像常持念所未一日遊歷攝州難波津忽

見關伽器浮海來迎視則十一面大悲像駕

于器也志嘉而取之銅像也 是今南都東大寺二月堂之本

大物浦 川邊郡尾崎ニアリ大物ノ号東鑑
 二出舊屋ノ部ニ詳也
 阿彌陀浦 同郡同所ニ属ス郡内千僧村願
 成就寺ハ聖武天皇ノ勅願所行基僧正ノ
 開基タリ然ルニ世道場ニ安置セシムル
 本尊ハ當浦ノ潮ニ漂流シテ得之ヲ
 也因テ佛名ヲ取リ願成就寺記其部詳也
 蛭子浦 武庫郡西宮ノ浦邊ヲ云リ蛭兒尊
 三歳ニナルニテ足猶不立天磐椽樟船ニ
 乘テ放棄其流寄夕此所ニ祀祭テ沖荒夷

社トス因テ以テ世ニ蛭子浦ト稱ス神社
 其部ニ詳ナリ
 木津浦 西成郡木津村ニ向リ
 勝間浦 同郡勝間村ニ向リ歌名所勝間ノ
 浦也今俗木妻トス此外傳法浦七道浦等
 ノ如ハ皆木津木妻浦ニ同シテ村里地名
 ニ因ル取調ナキヲ以テ餘ハ略之

攝陽群談卷第四終

